

FBI

# 大学発 日本人と技術

日本を支える研究活動と技術開発

## 米RITの修士号が最短2年で取得可能 デュアルデGREEプログラムで協定調印

### 金沢工業大学

2018年4月から米ロチェスター工科大学(RIT、ニューヨーク州)とデュアルデGREEプログラムを始める。このほどRITで同プログラムの協力協定書署名式が行われ、大澤敏学長とRITのジェレミー・ヘフナー学事担当上級副学長

が署名した。

同プログラムは連携する大学間で同じ学位レベルの要件を修了した際、各大学がそれぞれ学位を授与するもので、今回の協力協定では、大学院工学研究科情報工学専攻博士前期課程の学生が同大とRITの両大学院で学び修了要件を満たすことで、最短2年間で両大学の修士号取



デュアルデGREEプログラムの協力協定書に署名するヘフナー上級副学長(左)と大澤学長

得が可能になる。プログラムの募集人数は最大3人までで、18年度情報工学専攻入学生を対象に募集を始める。金沢工業大学にとって初のデュアルデ

GREEプログラムとなるとともに、RITにとっても初めての国際的なデュアルデGREEプログラムとなる。



## ■マンダムと共同「男の就活身だしなみセミナー」開く

### 大阪電気通信大学

マンダムと共同で、男子学生限定でマンダムのヤング男性向けグルーミングブランド「ギャツビー」が提案する「男の就活身だしなみセミナー」を7日に開催した一写真。就職支援プログラムの一環として開催された本セミナーは、就活における身だしなみについての正しい知識とケア方法を学ぶことが目的。この日は就職活動準備中の3年

生や就職活動真っ最中の4年生の男子学生が多数参加した。

セミナーでは、髪、肌、体臭といった身だしなみが自身の印象や評価に大きく影響するという調査データをもとに、正しいケア方法や印象アップのコツについてマンダムの担当者が解説。学生たちはフェイシャルペーパーを使用して肌の状態を確認するなど、同社の商品を使って実際にケアを体験した。

## ■ソーラーチームが速度重視の新車両を初公開

### 工学院大学

10月にオーストラリアで開かれる世界最大級のソーラーカーレース「2017ブリヂストンワールドソーラーチャレンジ」に参戦するソーラーチームが新車両を6月29日に新宿キャンパスで初公開した一写真。同チームの参戦は3回目。前回大

会(2015年)でクルーザークラス準優勝の実績を残しており、今回はより速度を重視したデザインの新車両「Wing」を作り上げ、チャレンジャークラスの優勝を目指す。

お披露目会では、工学院大学の名誉博士でノーベル化学賞を受賞した根岸英一博士が「新しいことにチャレンジすれば、その先にはすばらしいゴールがある」などと、激励のビデオメッセージを披露。また、同チームの「応援大使」に就任したタレントの足立梨花さんも出席し、初優勝を目指すチームを激励した。



## ■「EV活用アイデアコンテスト」電力システム研究室が最優秀賞

授賞式でマスコットキーを受け取る電力システム研究室の大田豊准教授(左)



### 東京都市大学

「EV(電気自動車)活用アイデアコンテスト」(主催・東京電力ホールディングス)で、このほど電気電子工学科電力システム研究室が最優秀賞を受賞した。このコンテストは、EVのさらなる普及促進を目的に、EVを活用した新しい事業・技術アイデアを自ら実証実験する提案を募集。今回は23件の応募があった。

同研究室は、再生可能エネルギーをEVへ充電し、そのエネルギーを他施設へ運んで給電・シェアする実証試験を同大キャンパス(世田谷、等々力、横浜)間で行うことを提案した。実証試験には、主催者から最長3年間無料で貸与されるEV(日産自動車「e-NV200」)が利用される。

## ■光誘起力による高効率分子会合体生成とその測定法開発

### 東京理科大

光誘起力によって室温の水中の1ナノメートルサイズの分子を集合させ、平衡状態では存在しない会合数や分子配置の分子会合体を生成、観測することに理学部第一部物理学の徳永英司教授と電気通信大学・東京理科大学の小林孝嘉客員教授の研究グループが成功した。しかもこの応答が、室温の激しい分子の熱運動の大きさに対して、知られている公式に従って計算できる光の圧力による効果から予

想されるよりも4けたも大きな生成効率で起こっていることも突き止めた。この観測は、分子の会合状態の変化を吸収スペクトルの変化で追跡する方法で初めて可能になったという。

この研究成果は、世界で初めて光誘起力が平衡状態に向けて結晶化を加速するだけの役割でなく、平衡状態で存在できない結晶状態を作成することに使えることを実証。この観測方法を使えば、室温の溶媒中で未知の分子やイオンの集合状態を観測することにより、結晶化のメカニズムの解明や新しい分子会合状態の作成に貢献できると考えられている。

## ■第3回高大連携活動で報告会開催

### 埼玉工業大学

3回目となる2017年度高大連携報告会が6月28日に開かれた。埼玉県内を中心に群馬県などの高校の校長や教頭をはじめ教職員や大学関係者、計約50人が参加。同大からは松川聖業理事長、内山俊一学長をはじめ多数の教職員が出席した。今回の報告会では、「高校と大学の接続的な教育および地域との関わり」を主題として、高大連携活動の現状報告、高大連携・地域連携の活動、科学・工業の教育における国際事情、地域における若年プログラミング教育の事例と展望などに関連して、計9件の活動報告の講演があった。

群馬県立桐生商業高等学校の高橋みゆき教頭が「これからの高大連携に期待すること」のテーマで講演するなど、それぞれの高大連携活動に関し具体的な活動報告が発表され、高校側から連携授業の要望も新たに4件出された。

【ガイド】工学院大学 E-mail: gakuen\_koho@sc.kogakuin.ac.jp ●芝浦工業大学 E-mail: koho@ow.shibaura-it.ac.jp ●千葉工業大学 E-mail: cit@it-chiba.ac.jp ●東京電機大学 E-mail: keiei@jim.dendai.ac.jp ●東京理科大学 E-mail: koho@admin.tus.ac.jp ●東京都市大学 E-mail: kouhou@tcu.ac.jp ●大阪工業大学 E-mail: kikakuka@ofc.oit.ac.jp ●大阪電気通信大学 E-mail: kouhou@mc2.osakac.ac.jp ●金沢工業大学 E-mail: koho@kanazawa-it.ac.jp ●豊田工業大学 E-mail: s-koho@toyota-ti.ac.jp ●広島工業大学 E-mail: kouhou@it-hiroshima.ac.jp ●愛知工業大学 E-mail: d-koho@aitech.ac.jp ●埼玉工業大学 E-mail: kikaku@sit.ac.jp